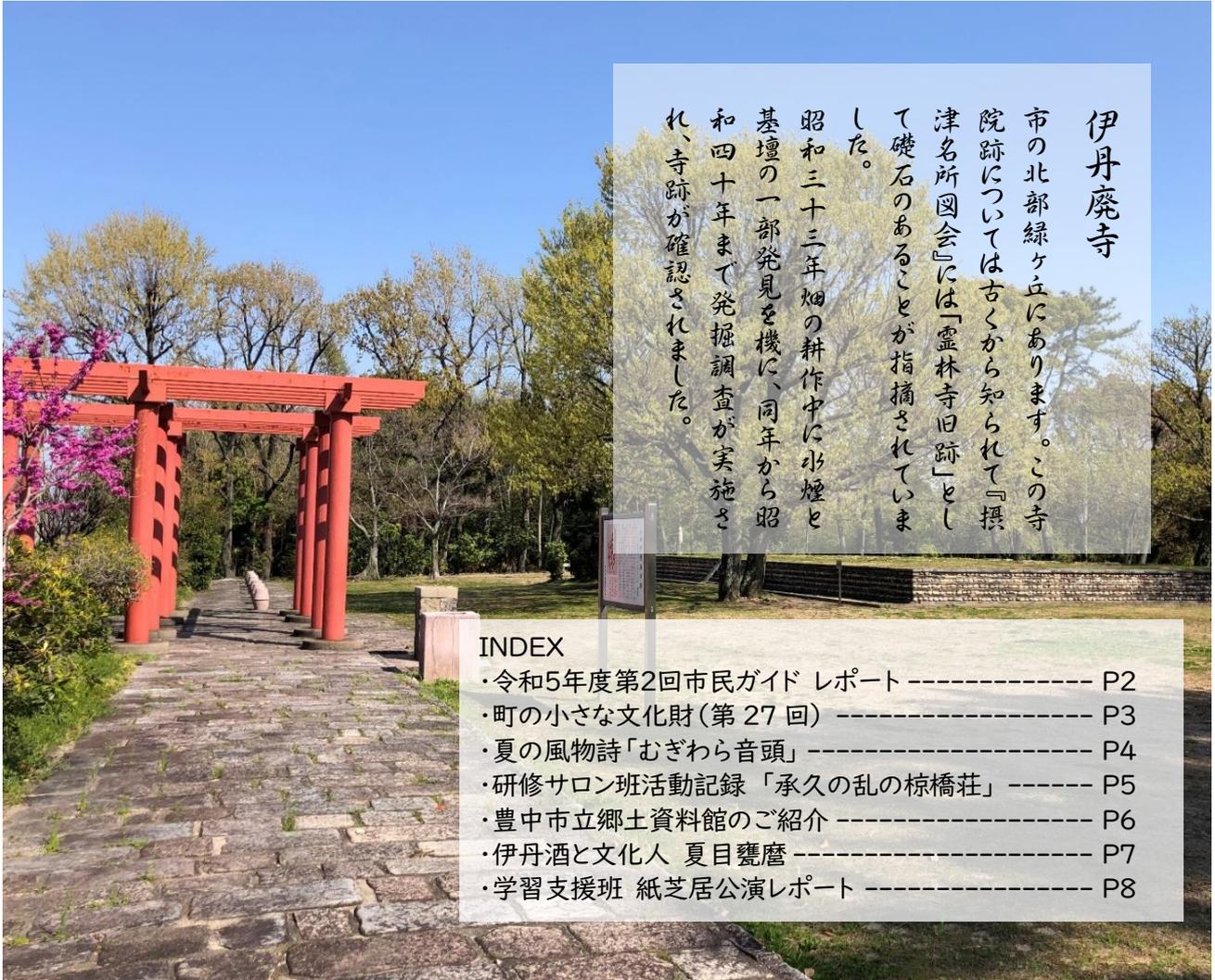


# 伊丹市 文化財ボランティアの会

発行:伊丹市文化財ボランティアの会

発行所:伊丹市まち資源室文化振興課内 (伊丹市千僧1-1-1)



## 伊丹廃寺

市の北部緑ヶ丘にあります。この寺院跡については古くから知られて『撰津名所図会』には「霊林寺旧跡」として礎石のあることが指摘されていました。  
昭和三十三年畑の耕作中に水煙と基壇の一部発見を機に、同年から昭和四十年まで発掘調査が実施され、寺跡が確認されました。

### INDEX

・令和5年度第2回市民ガイド レポート -----	P2
・町の小さな文化財(第27回) -----	P3
・夏の風物詩「むぎわら音頭」 -----	P4
・研修サロン班活動記録「承久の乱の棕橋荘」 -----	P5
・豊中市立郷土資料館のご紹介 -----	P6
・伊丹酒と文化人 夏目甕磨 -----	P7
・学習支援班 紙芝居公演レポート -----	P8

## 伊丹市内ボランティアガイドのご案内

伊丹市内にある文化財(史跡)のガイドをご希望される方は

伊丹市文化振興課 文化財担当まで 電話(☎:072-784-8090)

または文化財ボランティアの会にメール(ibunbora@yahoo.co.jp)でお申込みください。

### 【ガイドコース】

- A コース:有岡城跡・荒村寺・市立伊丹ミュージアム(旧岡田家・旧石橋家)・猪名野神社など
- B コース:猪名野神社・伊丹緑道・白洲屋敷跡・辻の碑・伊丹廃寺跡など
- C コース:昆陽池・東天神社・山陽道(西国街道)・昆陽寺など
- D コース:鴻池神社・慈眼寺・鴻池稻荷祠碑・容住寺・天日神社など
- E コース:御願塚古墳・都市景観形成建築物・須佐男神社・南野神社など
- F コース:有岡城跡・桑津神社・加茂神社・称名寺・春日神社・松源寺・伊丹スカイパークなど

## 市民ガイド(令和5年度 第2回ガイドブック片手に伊丹を歩こう)

### 「城下町から酒造りの町へ」

9月16日(土)午前9時30分から正午ごろまで、まだまだ残暑厳しい中で、歴史ウォーキングを実施した。集合場所のカリヨン塔前に参加者2名が時間より少し早めに姿を見せた。「広報伊丹9月1日号」を見て、応募した仲良しの女性お二人だった。今回は定員15名で、5名のガイドチームで案内する予定だった。ところが、実施2日前に参加者が初日申し込みの2名から増えていないことが判明。その時点で、ガイドチームを解散したのだが、「ガイドの実践練習をしたい」という熱心な女性会員と筆者の2名で、案内をすることとなった。

カリヨン塔前で参加者から「我々だけですか?」と問われた。



「そうです。今回ご参加のお二人は選ばれし人たちですよ」と、苦しくかつ口惜しい弁明を

してから、本題に入った。

有岡城跡では、「惣構」「石垣遺構」「庭園遺構」の3つをキーワードとして、城の特徴を説明。荒村寺はカリヨン塔のあたりにあったが、1977年に駅前再開発事業に伴い、現在地へ移転された。本泉寺では楠木正成一族の墓を見学。大溝跡は、城下町時代に侍町と町屋を区画する6m幅の堀を、江戸時代に埋め立て、酒造用の石組排水溝に作り替えたものであり、今回のテーマ「城

下町から酒造りの町へ」を象徴するような遺構であると、力説した。

三軒寺前広場では惣構の西端を確認してから、法巖寺の大クス、正善寺の薬医門・墓股、大蓮寺の伊丹氏供養塔などを見学。さらに金剛院でも薬医門・墓股を見て、一番奥の愛染明王堂に海上交通の守り神・金毘羅大権現が合祀されていることから、江戸積酒造業で栄えた伊丹酒造



家たちの信仰を集めたとのご住職のお話を披露した。猪名野神社では、神社の建物などについて案内。さらに、有岡城の岸

の砦についても触れた。猪名野神社の入口に建つ2基の燈籠の裏側に回り、寄進者名(松屋与兵衛)を確認。「この名前を覚えておいて欲しい」と、伝えてから旧岡田家住宅へ向かう。1674年に松屋与兵衛によって建てられた建物内部の店舗・洗い場・釜場・酒蔵などを見学。最後に館内の展示を見ながら、山中新六幸元によって鴻池で清酒が造られ、当時の一大消費地江戸へ酒を運んで販売したこと、その後酒造の中心が郷町に移り、ピーク時には80軒を超える酒蔵が軒を並べ、江戸積酒造業で栄えた歴史などを説明して、案内を終えた。

(末次 記)



## 令和5年度 伊丹市文化財保護啓発事業に参加します



昨年の市民ガイド・一斉清掃

伊丹市は<郷土の歴史・文化にふれあう機会を通じて、郷土への愛着の心を育てる>との目的で、毎年11月に様々なイベントを実施しています。

今年も、11月1日~30日の1か月間、市内各所で開催されます。当会では、昨年同様 歴史散策・パネル展・一斉清掃に参加します。

[町の小さな文化財 第27回]

猪名寺樋門および記念碑  
(東有岡1丁目)

猪名寺井は伊丹市内 台、尼崎市猪名寺、南清水地区に導水する井であり、駄六川から取水している。JR 伊丹駅東口からイオンモールに向う道路が駄六川を渡る橋に隣接して猪名寺井の樋門がある。また「JR 伊丹公園」の片隅に記念碑が設置されており、以下の印刻がある。

『記念碑 猪名寺井水利組合は旧来より駄六川を水源とし伊丹市内台尼崎市猪名寺及び南清水地区約百町歩の灌漑用水を確保してきたが 駄六川第弐次改修事業に協力し 流水の円滑を図るため従来の伊丹市雲正の下地先の取水堰を撤去し ここ伊丹市東有岡壱丁目地先に取水施設を設置したものである これを記念してここ



猪名寺樋門と銘板

に記念碑を建立する 昭和五十三年参月吉日』

河川改修工事は川底の堆積物を取り除くので川底は低くなり、これまで取水してい

た樋門からは取水できなくなる。取水するためには樋門を川底のより高い上流側に移設するのが通常であり、樋門を駄六川の雲正の下から下流側の東有岡1丁目に移すことは考えられない。東有岡に設置されている樋門の高さは駄六川よりかなり高く、駄六川からの取水は困難である。駄六川からの取水が困難である代償として、記念碑に隣接して地下水汲上げ用のポンプ小屋があり、地下水を汲み上げ必要な水量を賄う仕組みになっている。

耕作地の減少により、灌漑用水の需要が殆どなくなった現在、猪名寺樋門は取水目的ではなく、猪名寺井のモニュメントとして残してあるようだ。(松田 記)



記念碑

巨木のささやき

私の樹齢はおよそ 400 年、県下随一のイヌマキで、県の天然記念物に指定されています。今から 400 年前(1623)といえは江戸時代、徳川家光が将軍になった年です。浅野孫左衛門や渡辺新右衛門たちが新田中野村の開発を始めたのが寛永年間(1624~1644)ですので、私はすでに生を受け、すくすくと育っていた頃ですね。

イヌマキはマキ科の常緑樹で、比較的暖地で自生します。建築材としてはヒノキやスギより品質が劣るので「イヌ」をつけて呼ばれるようになったとも言われています。

中野地区に稲荷の社が設けられ、鎮守の森になっていきました。その中で、私は今も天王寺川からの涼風を感じながら成長を続けて、地域の歴史を引き継ぐ証として人々に親しまれています。

※巨木とは地上から 1.3m の高さで幹回りが 3m 以上の樹木のことで、伊丹市内には約 60 本の巨木があります。(編集担当 記)

中野稲荷神社のイヌマキ



## =夏の風物詩 盆踊り=

### 「むぎわら音頭」(県指定重要無形民俗文化財)

伊丹市は稲名野笹原とうたわれた昔より先人から唄い伝え、踊り継がれてきた民俗芸能としての「摂津兵庫功德盆踊り」があります。この踊りは、通称「むぎわら音頭」の名で市民に親しまれており、その起こりは、今から千二百年ほど昔に僧行基が摂津の国の開発にあたり、その建設に従事した人々や土地の住民たちの慰安と供養を兼ねて踊った「念仏踊り」が始まりと伝えられています。

むぎわら音頭の踊り方は櫓を中心に左回りの踊り方をしますが、その踊り方は多種多様です。むぎわら音頭はテンポが速く、かなり複雑な振りになっています。通称となっている「むぎわら踊り」は、麦の取入れをしながら、盆の音頭を稽古するうちに生まれた踊り方だと言われています。その他、招かれた時に、生活様式をおもしろおかしく取り入れた「餅つき」「網ひき」「手ぬぐい流し」「角力取り」「かまきり」「かえるとび」「小手かえし」など、その名の通りの「曲踊り」という踊り方があります。

令和5年は8月15日と16日の2日間東浦公園(笹原中近く、南野3)で、コロナ禍で4年振りの開催予定でしたが、15日は終日、台風7号の影響で荒天のため中止となり、16日だけの開催となりました。当日は19時開会となり、藤原市長はじめ多くの来賓の挨拶の後、太鼓の音と共に賑やかに音頭が会場に流れ、祭り気分も盛り上がりました。公園に出店している露天商のたこ



焼き、イカ焼き、綿菓子、りんご飴など、どの店も盛況でした。夏休中でもあり子供達も大勢、浴衣を着て参加していました。

踊りの方は保存会の皆さんが一重でリードされ、婦人会が二重、そ



して、小、中学生が浴衣を着せてもらい、多分練習してきたのだろう、上手に踊って三重の輪で楽しく踊っていました。

盆踊りの思い出としては、伊丹に来る前は、大阪の八尾で何処に行っても「河内音頭」でした。夏の夜に、河内菊水丸の音が響きわたっていました。

全国的には、徳島の「阿波踊り」や土佐の「よさこい踊り」が各県にファンクラブが出来ているほど普及しています。サンバのリズムで市民の元気が出るのでしょうか？

残念ながら愛媛の「松山踊り」は、基本は「野球拳音頭」で、座敷で行なう為か、優雅なのですが、盛り上がりには欠けます。それでも、役所、銀行、企業などが「連」を作り、繁華街を練り歩きました。

「おわら風の盆」は富山県八尾(やつお)の町で行われている踊りで、「情緒ある雰囲気」が独特で、胡弓(こきゅう)の調べが一層もの悲しさを醸し出しています。(9月1日～3日で開催)

\*歌手の石川さゆりが「風の盆恋歌」として歌っています。

伊丹では地藏盆の8月25・26日に、市内の各地で盆踊りが開催されました。コロナ禍の影響もあり、4年振りの開催となりましたが、久しぶりの夏の風物詩を楽しまれたことでしょう。

(酒井正憲 記)

## 研修サロン班活動報告 屋外研修の記録

### 9月21日(木)「承久の乱の棕橋荘」 参加8名

今回は、承久の乱の発火点となったといわれる棕橋荘を中心に、村さんのご案内で巡りました。猪名川と神崎川の合流点付近です。

参加者もあまり使ったことのない阪急神崎川駅が出发点です。駅そばの洲到止(すどうし)の渡し場跡碑を經由して、洲到止八幡宮へ向かいます。一度庄内神社に合祀されましたが、戦後地元住民(大島鳩恩会)の努力により再建された神社です。児童公園の奥につながって、親しみの感じられる神社でした。周辺には洗い場跡など多くの石碑が、大島鳩恩会によりきれいに整備されていたのが印象的でした。

赤穂義士萱野三平と一族の墓や碑のある新福寺、光圀寺を経て、“承久の乱”と書かれたのぼりはためく棕橋総社を訪れます。棕橋総社には、後鳥羽上皇に寵愛された亀菊が信仰した出世亀菊天満宮が摂社としてあります。亀菊は上皇から棕橋荘を与えられ、承久の変の引き金にもなった人物です。また、この地域には鯉に関する伝説が残されています。棕橋総社祭神の素戔鳴尊は高天原から鯉に乗り、当地に来たとのことです。

次に訪れた治田寺にも鯉伝説があります。行基さんが治田寺に来ようとしたとき、橋が洪水で流されましたが、鯉が集まってきてその背に乗って猪名川を渡ることができたそうです。地域の人は鯉をあがめて食べないとか。

その後、素戔鳴神社、田中幸三郎翁顕彰碑、田中家住宅を見学し、猪名川沿いのバス停から阪急園田駅までバスに乗り解散しました。蒸し暑かったですが、何とか最後まで、予報された雨も降らず、意外に近くにあった承久の乱ゆかりの

地、整備されたきれいな石碑、何カ所も出てきた鯉伝説、いろいろ印象に残った屋外研修でした。(岩崎 記)



新福寺前にて



棕橋総社の鯉



治田寺の行基さん(足元に鯉)

### 【研修サロン班 活動予定】

10/5(木)勉強会・10/19(木)屋外研修「宝塚小浜地区」

## 豊中市立郷土資料館のご紹介

豊中市立郷土資料館が昨年 11 月 1 日オープンし、1 周年を迎えます。

人口 40 万人の中核市指定の大都市としては遅すぎたようにも思えますが、3 階建ての立派な建物で常設展示・企画展示等で活用されるとのことです。豊中市では埋蔵文化財(土器・石器・木器など)約 13,000 箱、歴史資料(古文書・絵図など)約 9,000 点、民俗資料(農具・生活資料など)約 7,000 点をはじめ、歴史・文化財に関する豊富な資料・情報を保管していますが、市内各所に分散保管していて、必ずしも適切な保管環境とは言えず、また十分な公開・活用ができていない状況でした。

豊中市民、大阪府民以外でも、豊中とは古代から街道・河川のつながりから深い歴史的関係があり、ぜひ活用していきたいところです。まだすべてが整ってはいませんが、順次整備されるようです。入館料は無料ですが、今後企画展示では有料となることもあるようです。その他歴史講演会や遺跡ウォークなども開催の予定です。

みなさま“庄内式土器”ってご存知でしょうか？弥生時代と古墳時代の二つの時代の土

器のどちらにも少しずつ似た特徴をもつとされます。昭和 9 年庄内小学校で発見され、多くの学者の研究

から昭和 40 年、発見場所から“庄内式土器”と名づけられました。このことから考古学の世界では“庄内”と言えば山形県でなく、豊中市なのです。12 月 17 日(日)まで、企画展「庄内式土器のひみつ」が開催されています。



### 【概要】

- ・豊中市教育委員会  
社会教育課 郷土資料館  
豊中市庄内栄町 5 丁目 4 番 14 号  
(最寄り駅：阪急電鉄宝塚線庄内駅)  
電話：06-6334-2551
- ・休館日：毎週月曜日(その日が祝日の場合、翌平日) 祝日の翌日(土曜、日曜を除く)  
年末年始(12 月 29 日から 1 月 3 日まで)
- ・開館時間：9 時 30 分～17 時(入館は 16 時 30 分まで)

(村 正司 記)

## 文学碑探訪

佐藤惣之助

今年 18 年ぶりに阪神タイガースがリーグ優勝し、私たちの地元である京阪神は盛り上がっている。大阪の道頓堀ではファンたちが阪神の応援歌「六甲おろし」を大声で歌い合う光景が報道されていた。

この歌は今回紹介する佐藤惣之助が作詞し、作曲は高校野球の行進曲「栄冠は君に輝く」など、数多くの名曲を手掛けた古閑裕而である。

佐藤惣之助は大正・昭和に活躍した詩人・作詞家で、上島鬼貫の俳句に魅かれて、この付近を訪れたのだろう。

<墨染寺にある鬼貫の墓を詣で、静寂につつまれる秋の夕暮れに、ひとり佇んでいるとどこからか虫の声が聞こえてくる。>

碑は墨染寺横の西の町児童公園内にある。(編集担当 記)

伊丹で  
一鬼貫の墓に詣づー  
折から、折からは、秋もほのくれ  
みかんの青い酒倉について  
こっそり曲がった墨染寺  
月夜がらすも鳴きさうな  
わが木槿(鬼貫)翁のをくつきに  
旅なればかたはらの鶏頭を  
いささか手折りつ、ききぬ  
露いっぱい虫の音  
空いっぱいものもの寂び音



## ＜たまたま石＞が伝えること

会社勤めしていた頃、酒で失態を演じた人をたくさん見てきた。宴会や飲み会での泥酔悲話は日常茶飯事だった。

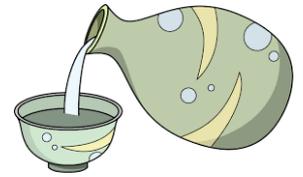
江戸時代、伊丹は酒造りで栄えた。醸造された酒は江戸に送られて、すっきりとした味わいの清酒「伊丹諸白」は江戸の人たちから高い評価を得た。その清酒に魅せられて、各地から多くの文化人が訪れた。さぞかし、酔っ払いの多い町だったのだろう。酒に酔って、昆陽池で溺死したと伝えられる文化人がいる。

その人、夏目甕麿は遠江国(静岡県西部)の造り酒屋で生まれた。26歳のころ、古事記研究で知られる本居宣長に師事した。1821年(文政4年)、49歳の時上方への旅で立ち寄った伊丹の地が気に入り、昆陽寺の塔頭正覚院に投宿する。昆陽池周辺は風光明媚な土地柄でもあり、のんびりと伊丹の酒を味わいながら、日々を過ごしていたのだろう。ところがその翌年、酒に酔った勢いで昆陽池に浮かぶ月を取ろうとして、溺死したと伝えられている。甕麿の墓は投宿していた正覚院にある。

以前、会員の方から墓の写真を見せてもらった。墓碑には「萩園之奥墓」と刻まれている。遠江の自宅には多くの萩を植えてあり、歌人としての号は「萩園」だった。墓の左右には丸い石と文字が刻まれている石碑があった。右横の石碑には夏目の生い立ちと、国学者や歌人として名を成したことが記され、その後にく生



来の大酒豪で、ある時、深酒の上、池に写る月を「取ってみせる」と言って、池の中に入り、急所を打ち他界したと伝えられ」と、最期の事故の様子が刻まれている。



その後続く文章を読んで、思わず笑ってしまった。

＜その石を「たまたま石」と称して、代々墓石「萩園奥墓(戒名は萩園浄学居士)」と伴に当院で供養されている。＞

左横に置かれている楕円形をした石は甕麿が池に飛び込んだ際に急所を打ちつけた石だと書かれ、村人はそれを＜たまたま石＞と名付けたという。まるで、泥酔の末亡くなった学者を茶化しているかのようだ。＜池に浮かぶ月を取ろうとして、溺死した＞と伝えられていることは、「酔って湖に映った月をつかまえようとして、溺れ死んだという伝説」を持つ唐の詩人李白になぞらえて、作った話なのだろう。ひょっとすると、村人たちは酔っ払いのインテリ学者に手を焼いていたのかもしれない。

昆陽池公園の西入口近くに、夏目甕麿の碑は立っている。石碑には＜遠つあふみ 入り江の月の おもかけも 思ひそ出る 昆陽の大池＞と刻まれている。昆陽池を眺めながら、故郷遠江の入り江の月を思い浮かべている、抒情的な歌である。

昔、酒は「百薬の長」で、一定量までなら健康に良いと言われていた。ところが最近、有名な医学雑誌で「健康にとって、飲酒量はゼロがいい」と発表され、話題になっている。

特に呑むとすぐ顔が赤くなる人にとって、少量であっても、アルコールは身体に悪影響を与えるという。(私もビール1杯で赤ら顔になる)

そういわれても、暑い日に飲むビールは、「生きてて良かった」と思えるほどに美味しい。

(編集担当 記)

## 学習支援班

### 紙芝居公演レポート ことば蔵にて

学習支援班いたみ民話会の本番行事が8月22日ことば蔵にて催されました。

朝のラジオ体操の集客にあやかって、40名ほどの小学生たちが紙芝居観覧に集まりました。

本編に入る前に予備知識として、法巖寺のクスノキの樹齢やクスノキの特性についての解説をしました。

デジタル紙芝居は「法巖寺の大きなクスノキ」と「三軒寺の砂かけ狸」の二本立てです。ウレタンの座布団で床に座った子供たちは、9人のセリフによる紙芝居を鑑賞しました。



椅子とテーブルを設営したのちに、工作の時間には20名ほどが集まりました。

たこ糸で吊るされたケント紙の人形やヤモリの形の、左右の糸を、交互に引っ張るとスルスと

登っていく不思議なおもちゃ作りです。まずお土産用の木製のおもちゃが配られ、続いて工作の本番です。

予想していたより年下の子供たちでしたが、糸を通すストローの穴2個をホッチキスで止めたり、糸の通し方を出来上がりの作品を映したスマホの写真で説明すると理解していただけました。おもりをセロテープで貼り、用意した色マジックペンで彩色し、糸の端に抜けないように木製ビーズを付けて完成です。



パネルの棚で出来上がったばかりの自作品で遊びました。珍しいおもちゃなので、自宅でもう一度作ろうと予備に用意した材料を持ち帰る方も大勢いました。

たくさんの方々に喜んでいただき大成功でした。またクリスマスの時期に紙芝居と工作を披露して、リピーターが増えれば良いと思います。

(中村 記)

## 活動記録 (8月~10月)

【定例会】・8/8 (火) ・9/12 (火) ・10/10 (火)

【史跡ガイド】・9/14 (木) Aコース (ネイチャークラブ 豊中市)・9/16 (土) 令和5年度第2回市民ガイド・9/22 (金) Aコース (シルバーカレッジ 神戸市)・9/22 (金) 旧岡田家住宅他 (シニア自然大学 豊中市)・10/5 (木) Cコース (コミュニティカレッジ 豊中市)・10/14 (土) Bコース (退職公務員 伊丹市)・10/16 (土) Aコース (区民カレッジ 大阪市)・10/27 (金) 旧岡田家住宅他 (ウォーキングクラブ 川西市)・10/28 (土) 令和5年度第3回市民ガイド

【研修サロン班】活動記録詳細と予定はp5に記載しています。

【学習支援班】紙芝居公演 8/22 (金) ことば蔵

【岡田家当番】令和5年9月15日から12月3日まで実施



10月16日のガイド風景

## 今後の予定 (11月~2月)

【定例会】・11/14 (火) ・12/12 (火) ・1/16 (火)

【史跡ガイド】・11/3 (金) 伊丹市文化財保護啓発事業 歴史散策・11/6 (月) Aコース (高齢者大学 大阪市)・11/15 (水) 旧岡田家住宅他 (散策の会 尼崎市)・11/23 (木) Aコース (趣味同好会 川西市)・11/25 (土) Aコース (ハイキング同好会 大阪府)

【学習支援班】紙芝居公演 11/30 (木) 神津福祉センター 12/9 (土) ことば蔵

【岡田家当番】令和5年12月で終了。次回は令和6年4月から実施予定